佳　　作

「被害を少しでも減らしていくために」

甲賀市立甲賀中学校　三年　　濵本　紗衣

「今にも、また崩れてきそうだ。」土砂崩れの跡地を見てこう思い、普段は綺麗で安らぎを与えてくれる自然の恐ろしさを知りました。

私は、昨年度の冬休みの課題で土砂災害について調査しました。そこで分かったことが主に二つあります。

一つ目は、現地調査で分かった土砂崩れの迫力です。信楽－大津間の道路の横には土砂崩れの跡地が広がっています。そこは、岩がゴツゴツと飛び出て、木の根はむき出しとても悲惨な状態でした。それを見て恐怖を感じました。いつまた崩れてくるのが分からなくてとても迫力がありました。

二つ目は、どのような所で土砂崩れが起こるのかです。それは降水量が多く、山に囲まれている所だと調査を通して分かりました。雨により石が土砂が一気に下流へ流されるので、台風や豪雨の日は特に危険です。

そして、昨年起こった静岡県熱海市伊豆山土石流災害では、行方不明者や死者、負傷者が出て、百二十八棟が半壊もしくは全壊したと知り、今まで「土砂崩れなんて土が崩れてくるだけで人に被害はないだろうと思っていたけど、そのイメージが無くなり衝撃を受けました。大したことないと思っていた土砂崩れが人の命を奪っていくシーンは見ていられませんでした。なので、土砂災害の恐ろしさを知ってもらい被害を少なくするために、この作文を書きました。

では、土砂災害から身を回るために私たちに何ができるのか。滋賀県では、一度崩れてしまい再度崩れてきそうな斜面に鉄で棚を作り崩れないようにする、ハザードマップを作るといった取り組みが行われています。又、私の学校には隣に山があるため、避難所には山から遠い方の体育館を設定するといった工夫がされています。

これらのことから私たち一人一人が「自助」としてできることは、「危険を予測し、先に回避する」ことであると考えました。例としては、雨がたくさん降っている日は崩れてくる可能性が高いなと予測し、山には近づかないことや、ハザードマップを活用し自分の住んでいる地域は大丈夫であるのかを確認し、被害に遭いそうなのであれば非常用持ち出し袋を予め準備し、すぐに避難できるようにしておくことです。

一人一人が土砂災害についてよく理解し、先回りして行動していくことによって土砂災害による被害が少しでも減っていけばいいなと思います。私の住んでいる近くには崩れてきそうな場所がいくつかあるので崩れないよう棚を作るなど対策をしてほしいです。そうすればみんなが安心して暮らせるようになり被害を起きないのではと考えました。被害を完全に防ぐことはできないけれど、減らすことはできる。自然災害との付き合い方を見直していき、みんなが安心して暮らせる世の中になりますように。